

三原市歴史民俗資料館

三原のお宝 蔵出しニュース

— 第 76 号 —

写真でたどる 資料館の歴史 第 4 回

写真①



とぐろを巻くヤマタノオロチ（平成5（1993）年撮影）。
120cm×120cm の台に乗せて展示しています。

三原市歴史民俗資料館は令和7年夏に元ゆめきやりあセンター（館町二丁目）へ移転します。そこで、かつての資料館の様子を、資料館所蔵の写真で振り返ります。

資料館は昭和51（1976）年7月の開館後、徐々に展示を入れ替え、三原の歴史や文化を幅広い分野で紹介しています。今回は、かつて展示していた資料を紹介します。

写真①は神楽^{かぐら}で使われるヤマタノオロチです。1970年代はじめに作られたもので、平成2（1990）年に資料館に寄贈^{きそう}されました。資料の受け入れ記録には、頭部は桐材^{きりざい}で作られていると書かれています。

写真②は西町で使われていた、桶づくり道具の展示です。ここでは様々な大きさのノコギリやノミ、カンナなどを展示しており、木材の種類や形に合わせて使い分けていたことを紹介していました。

三原では古くから酒造りをしており、酒蔵では木製の桶を数多く使いました。桶屋は酒蔵と連携して、桶を修理したり、新しく作ったりするといった仕事をしていました。桶のほかには、ご飯を入れるおひつなどを作っていました。

現在これらの資料は、三原の歴史や文化を伝える資料として大切に保管しています。

写真②



種類ごとにまとめられた道具。
大型の箱は、ノコギリなどを
収納した棚です。(丸印)



現在の資料館の様子。
中世の三原について、写真や
こてんせき
古典籍で解説しています。

三原市歴史民俗資料館

三原市円一町 2-3-2

TEL0848-62-5595

令和7年1月発行

市内の文化財は
みはらデジタルミュージアムで
見られます！

<https://www.city.mihara.hiroshima.jp/site/digital-museum/>

